



所信表明

国際ロータリー第2610地区
2023-24年度ガバナーエレクト
大橋聡司

國際協議會報告

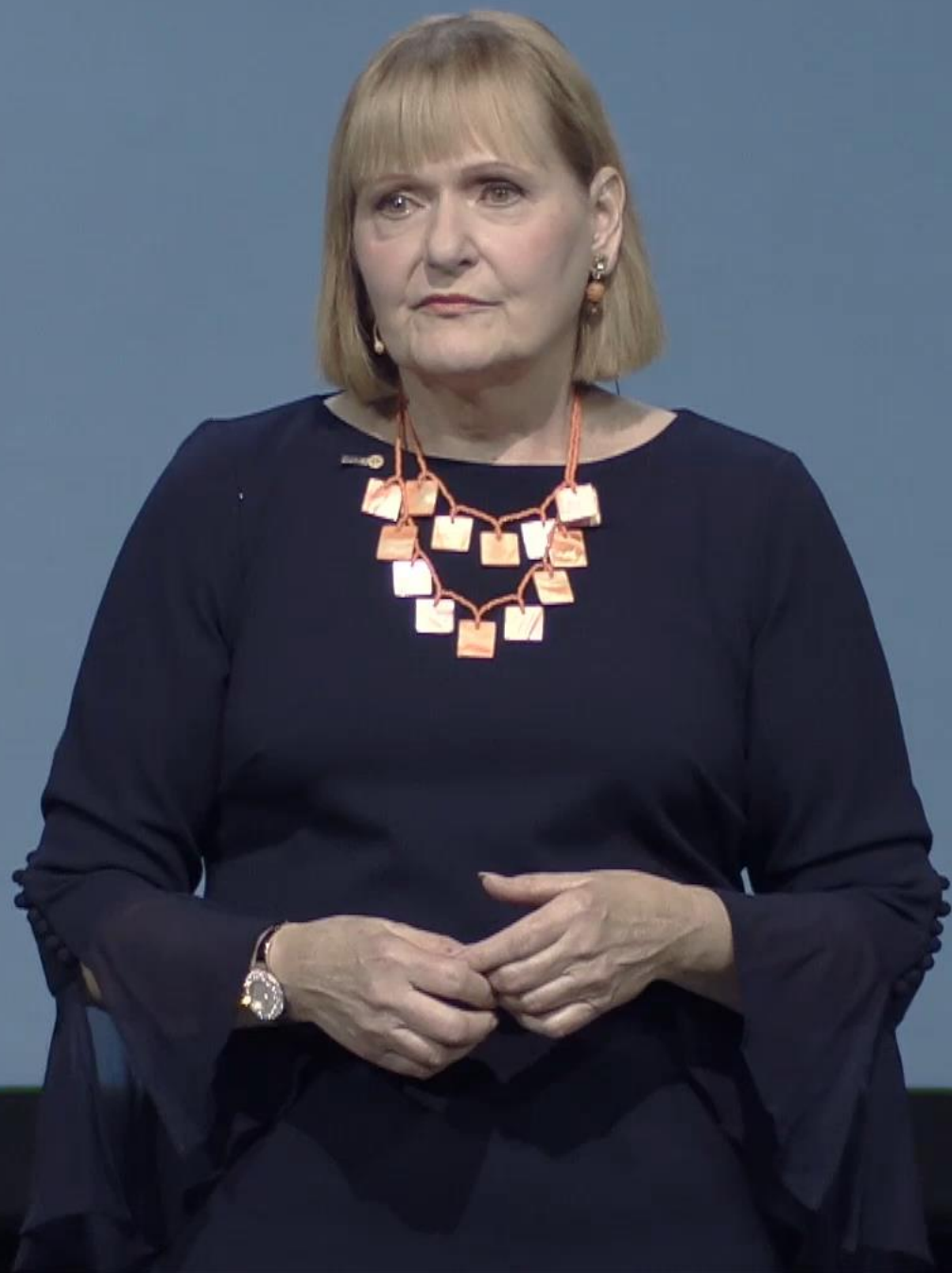


ステファニー A. アーチック会長エレクトの

2024-25年度テーマ講演の構成(年次テーマまで)

- ① ポリオ根絶が最優先事項であり、認識向上と資金調達が重要
- ② ロータリーの行動計画(方針)の推進者となってほしい
- ③ 過去50年のやり方を見直す時が来ている
- ④ クラブの衰退、会員の減少→地域社会のニーズにあった新クラブを結成する
- ⑤ DEIと帰属意識へのコミットメントを広げる。DEIによってロータリーは時代に即した存在になる
- ⑥ 平和構築は最優先事項のひとつ。2025年にイスタンブールでロータリー平和会議を開催
- ⑦ 平和構築の手段に「四つのテスト」があり、唱和だけでなく真の実践が必要
- ⑧ メンタルヘルスが重要で、自分自身の中にも平和を見出すこと





2024-25年度のテーマは 「THE MAGIC OF ROTARY」 (ロータリーのマジック)です





テーマカラーの**オレンジ**
は変化を、**ブルー**は知性
や信頼を表す

この組合せは、自分自身
を変え、世界を変えなが
ら共に前進したいという
熱い思いを表している

ステファニーA.アーチック国際ロータリー会長エレクト の講演の感想

1. ポリオ根絶、行動計画、会員増強、平和推進、DEIと多岐に亘るが、総てに中長期の継続性を感じる
2. “マジック”とは、活動のレベルを上げることによって得られる成果
3. 行動計画を変革のツールとし、ロータリーの変革への強い思いがある
4. 「クラブの体験を魅力的にするもの」としてクラブでの奉仕を重視している
5. 会員増強と新クラブ設立が強調されている
6. 「四つのテスト」を平和構築の手段と位置付けており、「平和」が2024-25会長イニシアチブのひとつと捉えた
7. 「自分自身の中の平和」という言葉でメンタルヘルス対策の継続を伝える
8. クラブにおけるDEIと帰属意識へのコミットメントを求めている

<会長イニシアティブ>

1. **最優先課題は会員増強を図る行動計画を推進すること**
3-Year Targets (3年間の目標)
2. **ロータリーのマジック~クラブでの体験を魅力的なものとする**
ロータリーの行動計画、ロータリーの強さを維持するため
3. **積極的な平和を通じて分断された世界を癒やすこと**
4つのテストの重要性、ピースポール(平和の塔)プロジェクトの推進
4. **継続性**
前任者や後任者と協力すること、クラブが取り組んで来たことやクラブに根付いていることに目を向けること

<具体的な目標としてコミットされた事項>

1. 3-Year Targetsを前提とし、2024-2025年度中には各地区で純増100名を目指して下さい
2. 各地区で4から5クラブの新規クラブを立ち上げて下さい

行動計画(=方針)

The ROTARY ACTION PLAN



ロータリー行動計画



私たちは世界で、地域社会で
そして自分自身の中で
持続可能な良い変化を生むために
人びとが手を取り合って
行動する世界を目指しています

ポリオ根絶まであと一歩のところまできたロータリーは、次なる課題に取り組む心構えができています。より多くの仲間を迎え入れ、より大きなインパクトをもたらす、世界に変化を生み出すための新たなビジョンの実現に向けて、行動を起こす時が来ています。国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを実現するため、今後数年の活動を方向づける四つの優先事項が定められました。

より大きな
インパクト
をもたらす

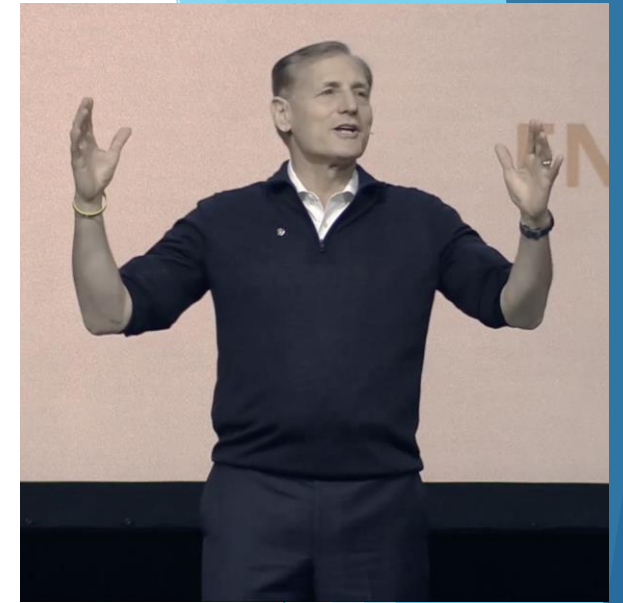
参加者の
基盤を
広げる

参加者の積極的な
かかわりを
促す

適応力を
高める

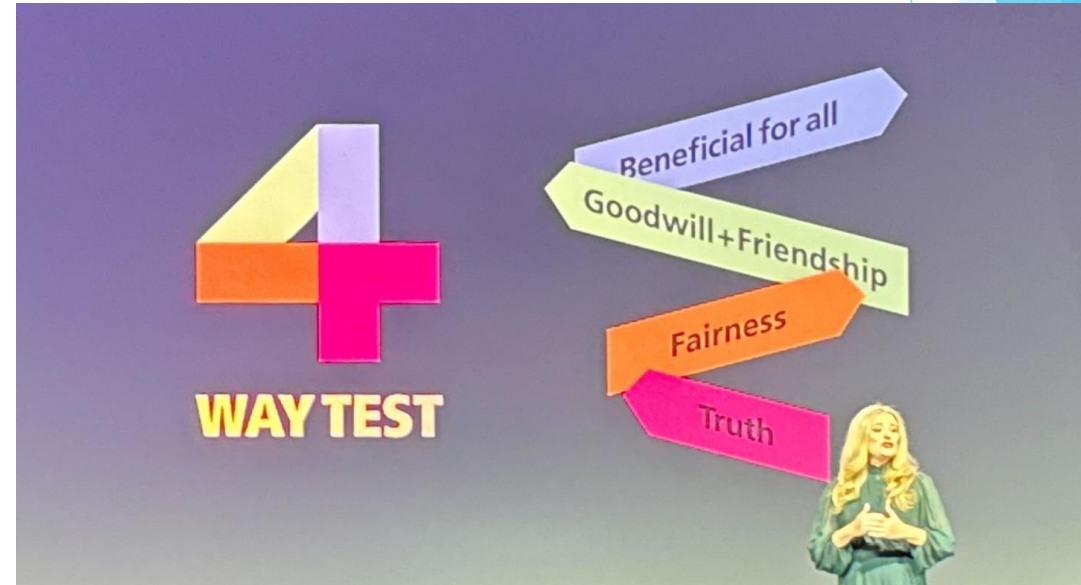
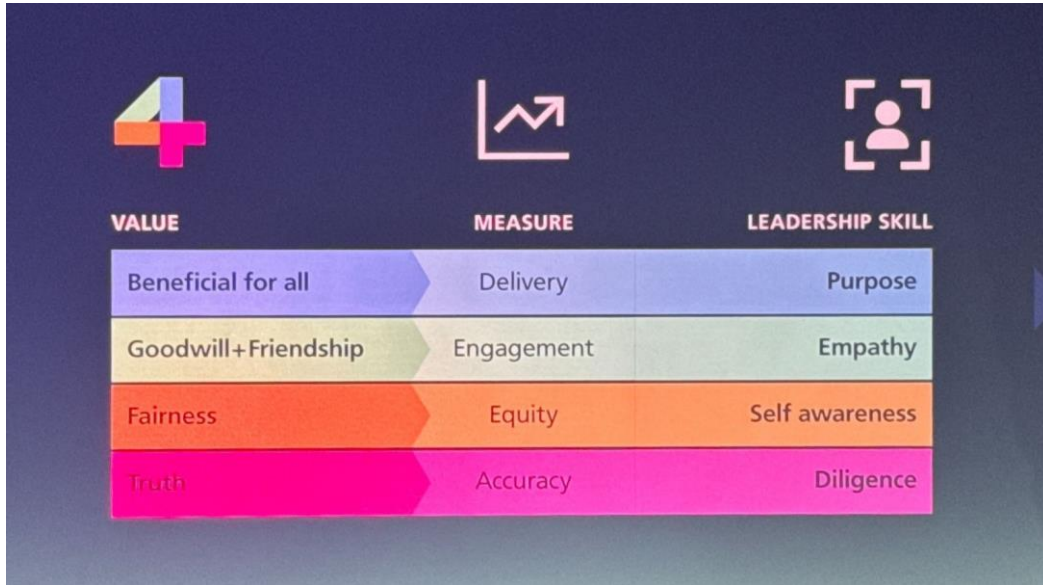
- ポリオを根絶し、残された遺産を活用する
- ロータリーのプログラムおよびロータリーが提供する体験に焦点を当てる
- 活動成果を挙げ、それを測る能力を高める
- 会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する
- ロータリー参加の新しい道筋を創り出す
- ロータリーの開放性とアピール力を高める
- インパクトとブランドに対する認知を築く
- クラブが会員の積極的参加を促せるよう支援する
- 価値を提供するため、参加者中心のアプローチを開発する
- 個人的／職業的なつながりを築く新たな機会を提供する
- リーダーシップ育成およびスキル研修の機会を提供する
- 研究と革新、およびリスクをいとわない文化を築く
- ガバナンス、構造、プロセスを合理化する
- 意思決定におけるより多様な視点を助長するために、ガバナンスを見直す

ジョン・ヒューコ氏
(RI事務総長兼CEO)講演



過去5年間で20%の地区が新クラブを設立していない
新会員のうち10%以上が入会1年以内で退会している
ここ数年、年間15万人が入会しているが、同数が退会している
ロータリーの中核的価値は変えずにそれ以外は、従来の慣習
を止めて、より良いものに変えることも必要である

四つのテストと帰属意識



不易のロータリーの価値観(四つのテスト)と、新しい価値観(DEI)を融合する

みんなが帰属意識を持つ

ロータリーのDEIの行動規範

- ① 他者を尊重する言葉を使う
- ② サポートを示す
- ③ 温かく迎え入れるインクルーシブな環境を助長する
- ④ 多様性を重んじる

2610地区は、

「D:誰もが」「E:笑顔で」「I:居心地のいいクラブ」を浸透させる

違う切り口でDEIを解釈すると

ダイバーシティ : 多様 ⇔ 画一・全体主義

エクイティ : 公平 ⇔ 不公平

インクルージョン : 包摂 ⇔ 排他



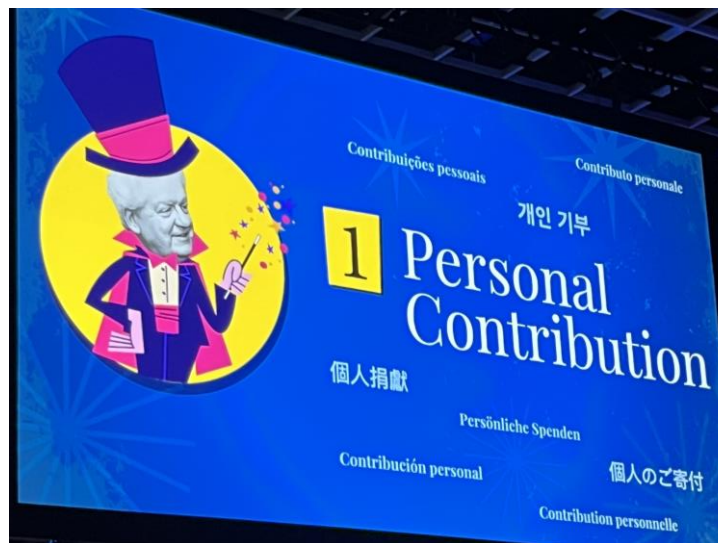
マーク・ダニエル・マローニー
ロータリー財団委員長エレクト



2024-25年度 寄付目標額 5億ドル



2025年までに恒久基金目標額2,500万ドルを達成



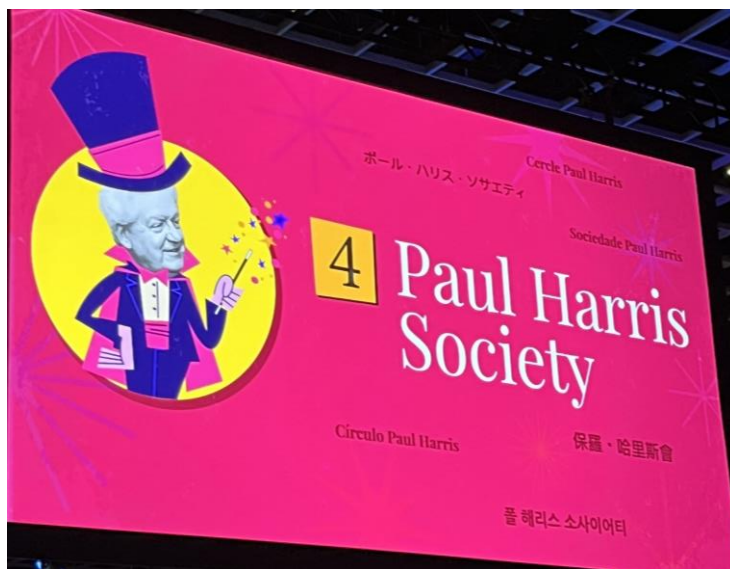
2024年8月31日までに年次基金への寄付を行い、
2024年12月31日までに恒久基金への寄付を行
いましょう



自動的寄付を利用する会員を10%増やしましょう



2024-25年度末までに少なくとも50人の会員から成る地区ポリオプラス・ソサエティを設立しましょう



地区のポール・ハリス・ソサエティ会員数を少なくとも10名増やしましょう



地区のレガシーイベントを担当するチームを選出しましょう

国際ロータリー第2610地区
2024-25年度

地区方針

地区テーマ

ロータリーを高めよう

Let's Enhance the Activity and Propagate

目 的

ロータリークラブを強化し支援すること(ロータリー章典17.010.1.)

目 標

【クラブ】 持続可能なクラブづくりへの貢献

【会員】 会員のやりがいと成長への貢献

【RI】 RIの組織構成員としての役割の遂行

【社会】 社会から必要とされるロータリー活動の推進と公共イメージ向上

指 標

- ・ロータリークラブ・セントラルでのクラブの状況改善度
- ・地区会員数の増加

基本方針

第2610地区の組織ガバナンスの強化

戦略計画

1. 目的に沿った効果的な地区委員会組織への改編と強化
2. 地区会合及びクラブ委員長会議の充実
3. 地区事業は3か年の中期タームで計画、実行
4. リスクマネジメント強化のために外部機関との連携
5. ガバナー事務所機能の向上と業務の効率化
6. 能登半島地震被災クラブ・会員への支援

地区としての具体的行動計画

1. RI会長の理解と促進	<ul style="list-style-type: none">・RI会長テーマ「ロータリーのマジック」を理解し、活動に生かす・ロータリーの基本理念、目的、四つのテスト、5大奉仕の浸透と実践・ロータリー行動計画(方針)の推進・2024-25年度のRIとロータリー財団の年次目標達成を目指す・目標達成のため、全クラブにクラブ優秀賞(旧ロータリー賞)への挑戦を推奨する・<u>3年間の目標(3-Year Targets)の推進</u>
2. 地区活動方針	<ul style="list-style-type: none">・<u>ロータリー章典及びRI細則並びにRI理事会の決定に則った組織運営の実施</u>・<u>戦略計画策定会議による地区戦略計画の策定と展開</u>・<u>原年度の事業の踏襲とブラッシュアップ</u><ul style="list-style-type: none">・チャリティランチの継続・石川県、富山県の公共イベントでのポリオ根絶キャンペーン・<u>ペーパーレスとデジタル化を段階的に推進</u>・<u>被災地クラブ・会員への支援の強化と継続</u>・災害支援のガイドラインを作成・運用

<p>3. ガバナー事務所 運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>法律事務所、会計事務所、社会保険労務士事務所と顧問・委託契約を結び、地区組織のガバナンス強化を図る</u> ・業務の効率化とクラブ及び地区委員会支援体制の強化 ・<u>能登半島地震復興支援対応のための人員補充、サテライトオフィスの設置</u>
<p>4. 地区委員会運営 (共通事項)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>クラブ支援のための地区委員会の再編と強化</u> ・委員会委員は委員会の継続性と地域バランスを考慮して選任する ・<u>ラーニング方式による運営を推進する</u> ・クラブ委員長セミナー等の資料は事前配布を基本とする
<p>5. 地区ロータリー 財団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリオ根絶への幅広い理解を進め、会員の積極的な協力を得る ・地区補助金およびグローバル補助金を活用した奉仕活動を推進する ・年次基金寄付目標 150ドル/人 ・年次基金寄付ゼロクラブ ゼロの達成 ・ポリオプラス寄付目標 30ドル/人 ・ポリオプラスへDDFの20%を寄贈 ・ポール・ハリス・ソサエティ(PHS)入会 5名増 ・ポリオプラス・ソサエティ(PPS)入会 25名増 ・メジャードナー 2名増 ・恒久基金への寄付を奨励

6. ロータリー米山 記念奨学会	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付ゼロクラブ ゼロの達成 ・普通寄付目標 6,000円/人 ・地区別寄付目標 10,000円/人
7. 会員増強	<ul style="list-style-type: none"> ・地区として純増30名以上 ・ダイバーシティの推進 ・会員数減少クラブゼロの達成
8. DEI	<ul style="list-style-type: none"> ・DEI研究委員会から常設委員会としてのDEI委員会への移行 ・第2610地区DEIスローガン「D:誰もが、E:笑顔で、I:居心地のいいクラブづくり」の浸透 ・入会3年未満の退会防止のための取り組み
9. RLI	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブリーダーのRLIへの参加を推進する ・ロータリーにおける最大の指導力養成プログラムという認識を広める ・ファシリテーターの育成
10. 公共イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーのビジュアルアイデンティティの理解促進 ・地区、クラブのロータリー行事でのブランドガイドラインの遵守 ・SNS及びメディアを活用した情報発信の推進

11. 情報リテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>マイロータリーの登録推進</u> ・<u>ラーニングセンターの活用</u>
12. 奉仕活動	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ委員長会議などクラブ活動への支援強化
13. 青少年育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーに関わる若い世代の交流を促進する
14. 地区会合	<ul style="list-style-type: none"> ・出席対象者を拡大し、より多くのロータリアンの学びの機会とする ・<u>地域社会に開かれた地区会合を意識し、地域への貢献と外部への発信を心がける</u> ・ロータリー章典に則った地区会合運営とする
15. 能登半島地震復興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>能登半島地震復興支援会議を設置し、ガバナーが議長となり、被災地支援をけん引する</u> ・国内外からの義援金・支援物資を被災クラブへ遅滞なく有効に届ける ・地区人頭賦課金等の減免などクラブの財務負担の軽減を図る ・被災クラブ会員への物心両面の支援を継続的に実施する ・被災クラブ会員へのメンタルヘルスケアとロータリアンでよかったと感じられる機会の提供 ・被災地のローターアクトクラブ、インターアクトクラブへの支援

ポリオデーイベントとフォトコンテスト に関するお願い

2024-25 年度におきましても、全ての地区と全てのクラブがポリオの根絶を願い、世界ポリオデーに向けてのイベントを実施して頂くことをご期待申し上げます。

合わせてフォトコンテストを実施し、全国のロータリアンからの写真を募集します。募集対象は、昨年のフォトコンテスト実施以降におけるイベントを対象とします。

今年度も含めイベントの規模は小ささまざまですが、イベント中のポリオ根絶を訴求する1シーンを切り取って写真に残すことで、地区やクラブの活動の記録とします。

見た人に感動を与える写真を残し後々までポリオ根絶の願いを伝え、そして全国の人達と共に多くの感動を分かち合ってください。

新年度においても審査を経て「RI 会長賞」「財団管理委員長賞」「RI 理事賞」などを選出し、ロータリー研究会にて表彰させていただきます。

2024-26 年度 RI 理事 水野功

3年間の目標

3-Year Targets

国際ロータリーの理事会は、活動や目標の継続性を重要な課題と位置づけ、2024–2025年度をトライアル期間の初年度とし、地区やクラブに対し理解と協力を要請しています。**これはクラブのためにおこなうものです。**

私たちが時代の変化とともに具体的に変化していくために、RIの提唱する方法を「新たな挑戦のチャンス」と捉え実践してみましよう。

3年間のグローバルトライアルを設定しそのプログラムを実施します。

1. **2024年7月1日から、ゾーン、地区、およびクラブに対する3年間の目標とローリングターゲット(年度ごとに見直す)プランを実施します。**
2. Rotary Club Centralをマルチイヤーターゲットダッシュボード(複数年目標一覧表示)として刷新し、組織的に目標を整えます。
3. 上記をサポートするためのリソースと学習プログラムを開発します。
4. プログラムの評価を2027年から2028年にかけて行います。

国際ロータリーは何を目指しているのか



Continuity (継続性)

3年間の目標を設定し、通常の1年間の焦点にとどまらないようにします



Simplicity & Alignment (シンプルさと整合性)

シンプルで明確な目標設定と達成までの検証、そしてロータリーの優先事項との整合性をとることで今まで以上の成果が期待できます



Regional Adaptability (地域適応力)

クラブがその地域に適した目標を設定することで地域での存在価値を高めます

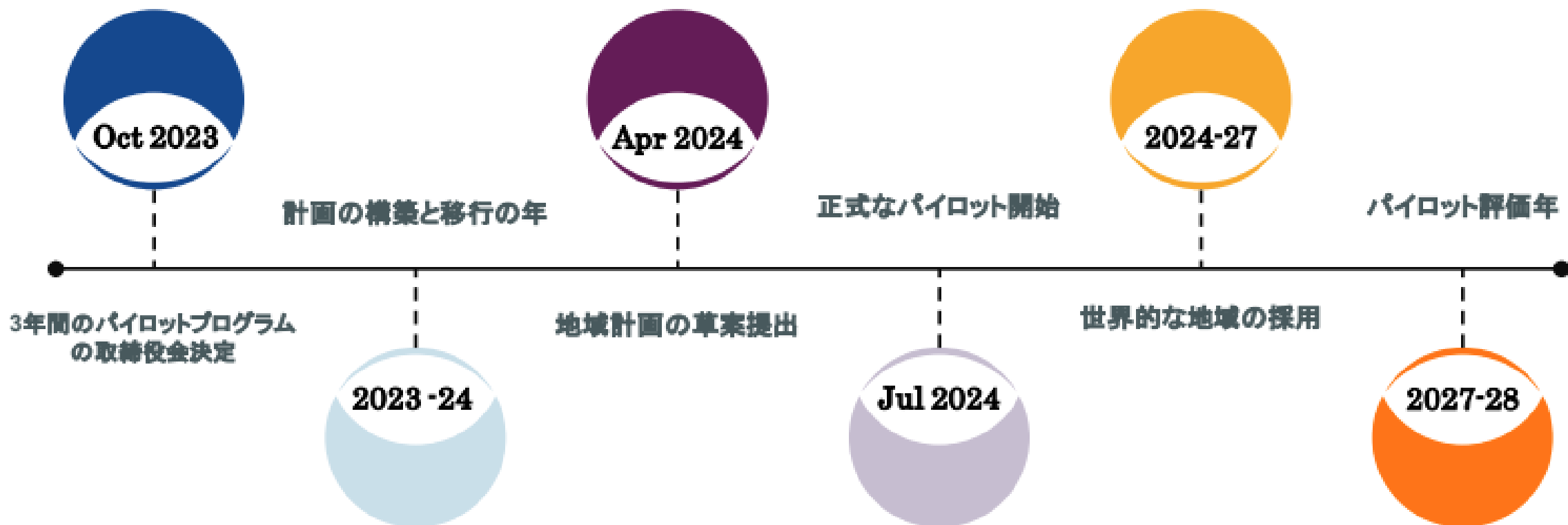
3か年の目標のキーワード

継続性の文化を醸成する
持続可能な勢いを構築する
重要な項目の測定をおこなう

SMARTターゲット

RIの目標との整合性をとる
会員の参加を促す（これが成功の鍵）

全体の流れとスケジュール



3年間の目標設定の具体的項目は「ロータリーの行動計画(方針)」の4つの優先事項に基づく



1. 会員増強
2. クラブの奉仕・親睦活動
3. ポリオ根絶
4. ロータリー財団への寄付
5. クラブの戦略計画
6. 公共イメージとコミュニケーション

クラブの目標設定の現状

3年間の目標設定の具体的項目	現クラブセントラルの目標設定項目	目標設定クラブ数	割合
会員増強	会員増強	53/64	83%
クラブの奉仕活動	奉仕活動	49/64	77%
クラブの親睦活動	親睦活動	30/64	47%
ポリオ根絶	ポリオプラス基金への寄付	33/64	52%
ロータリー財団寄付	ロータリー財団年次基金への寄付	41/64	64%
クラブの戦略計画	クラブ戦略計画	22/64	34%
公共イメージ	ロータリー作成の公式推進資料の使用	18/64	28%
コミュニケーション	クラブのプロジェクトのメディア掲載	28/64	44%
	ウェブサイトとソーシャルメディアの更新	26/64	41%

具体的にどうすればよいのでしょうか？

【クラブ】

- ①3年間の目標入力と管理は、「**クラブセントラル**」でおこないます。**クラブは「クラブセントラル」への入力が必要になります。**クラブセントラルは現在RIIによって3年の目標が設定できるように改変中ですので、まずは次年度の目標数値を入力して下さい。
- ②3年間の目標を設定するためには、向こう3年間の会長候補者や委員長、理事会などを巻き込んだ議論が必要になります。場合によっては委員長の任期を複数年にするなど、より継続性を担保する方法をクラブの新しい文化として取り入れる必要があるかも知れません。**(継続性)**
- ③3年間の目標を立てたら、毎年目標の達成度を検証し、必要に応じて次年度以降の目標を再設定して下さい。**(Rolling Target)**また、4半期ごとに進捗や達成度の管理を行なって下さい。

目標設定の項目は「ロータリーの行動計画(アクションプラン)」が基準になりますので、行動計画(方針)の知識習得、理解が必要です。習得が必要な場合は JAPAN ROTARY ポータルサイト www.japanrotary.club の「行動計画(方針)のページ」をご覧ください。またラーニングセンターの活用や地区リーダーへの相談やアドバイスを求めて下さい。

(JAPAN ROTARY ポータルサイトは検索エンジンからは検索されませんので、ブラウザに上記アドレスを打ち込んでアクセスしてください)

能登半島地震復興支援計画

令和6年 能登半島地震支援金

	クラブ	他地区	海外	その他	合計	前回差額	合計-支払	差引合計+繰越	
							差引合計	残金繰越	口座残高金額
4月2日	21,047,671	242,597,098	37,401,429		301,046,198		265,953,678	7,130,559	273,084,237
4月8日	21,052,171	242,003,498	39,121,429	100,000	302,277,098	1,230,900	267,184,578	7,130,559	274,315,137
4月10日	21,052,171	246,499,512	39,121,429	100,000	306,773,112	4,496,014	271,680,592	7,130,559	278,811,151
4月11日	21,504,671	246,799,512	39,868,929	100,000	308,273,112	1,500,000	273,180,592	7,130,559	280,311,151
4月16日	21,504,671	247,267,512	39,868,929	100,000	308,741,112	468,000	273,648,592	7,130,559	280,779,151
4月18日	21,504,671	247,267,512	39,868,929	100,000	308,741,112	0	273,648,592	0	273,648,592

地区特別基金
から地区災害
等対策積立基
金特別会計へ

支払	
摘要	金額
アイ・ツー	15,400
物資運搬	33,440
14クラブへ	34,200,000
手数料	8,580
七尾RC	6,440
小松東RC	6,440
輪島RC	6,220
穴水RC	4,940
能登受験生応援	800,660
フジマキネクタイ	10,460
受入利息	-60
合計	35,092,520

海外内訳	台湾	アメリカ(ベトナム)	ハワイ	オーストラリア	合計
4月8日	36,973,088	1,907,841	220,500	20,000	39,121,429
4月11日	37,720,588	1,907,841	220,500	20,000	39,868,929

目的

1. 被災クラブの支援
2. 被災会員の支援
3. 被災地の支援

目的達成のための方策

1. 被災クラブの支援(対象:石川第3グループ、石川第4グループ、氷見RC、氷見中央RC)
 - ①支援金の支給
 - ②RI人頭分担金減免の申請
 - ③クラブのニーズに応じた支援策の提供
 - ④グローバル補助金、災害救援補助金、(他)地区補助金を活用した支援プロジェクトの実施
2. 被災会員の支援(対象:支援が必要な被災会員全員)
 - ①地区人頭分担金の減免
 - ②地区会合の登録費の減免
 - ③個々のニーズに応じた支援策の提供
 - ④メンタルヘルスケアのサポート
3. 被災地の支援
 - ①支援金や支援物資の供給および人的支援
 - ②グローバル補助金、災害救援補助金、(他)地区補助金を活用した復興プロジェクトの支援
 - ③県社会福祉協議会との協定による災害ボランティア活動間接的支援の実施

組織体制(大橋・小山・翠田年度連携)

名 称	役 割
能登半島地震復興支援会議	<ul style="list-style-type: none">①義援金・支援物資の最適な分配を協議、決定する②被災クラブの活動支援の方針を協議、決定する③被災会員の負担軽減を協議、決定する④被災地の復興計画支援を協議、決定する⑤次年度復興支援推進組織を協議、決定する
能登半島地震復興支援推進本部	<ul style="list-style-type: none">①能登半島地震復興支援会議で決定された施策を実行する②能登半島地震復興支援会議で諮るまでもない事案に対して、施策を判断し実行する
能登半島地震復興支援被災クラブ担当副幹事チーム	<ul style="list-style-type: none">①被災クラブに伴走して刻々変化するニーズと支援を授受し、能登半島地震復興支援会議、復興支援推進本部に報告する

能登半島地震災害復興支援スケジュール

タスク	2023-24年度						2024-25年度						2025-26年度													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
支援金提供(第1回)	◆																									
被災状況調査	■			■																						
支援ニーズ調査		■		■																						
支援リソース調査				■																						
支援金提供(第2回)								◆																		
支援物資提供・仲介	■																									
ボランティア活動間接的支援				■																						
復興計画立案支援				■																						
復興プロジェクト支援										■																
支援金提供(第3回)																							◆			

令和6年能登半島地震に関わる退会防止のための対応

I 地区の対応策

- 1 能登半島地震における被災会員を調査し特定する
- 2 被災クラブのRI人頭分担金の免除を申請する
- 3 被災会員の地区人頭分担金を免除する
- 4 被災会員の地区会合の登録費を免除する
- 5 被災会員の心のケアと元気づける取り組みを行う

II 各クラブの対応策

1. 早期に、退会を考えている会員の把握に努め、極力慰留する。
2. 会社、団体の被災状況や経営状況から退会の意向を示している会員には、状況が好転すれば通常の会員に復帰していただくことを期待して「休止会員」として籍を残してもらう。

具体的な手続きとして次の方法がある。

- a. クラブ細則に会員種別の規定を設けて「休止会員」などを追加したうえで、例会出席の免除、会費の取り扱い、例会出席時の費用をどうするかなどを決めておく。
 - b. クラブ定款 10 条第 5 節 (a) を適用し理事会で特別に「休止会員」を認める。(原則一年間)
この場合においても適用した時の会費の取り扱いをどうするかなどを細則で規定しておくことが望ましい。
3. 高齢の会員、会社などを退職した会員が退会の意向を示された時には、シニア会員、OB 会員などを細則に規定し、出席規定の免除、会費の減免などを織り込むことによりクラブに残ってもらう。

なお、例会が休会中などの理由によりクラブ細則変更手続きが難しい場合には、暫定的にクラブ定款 10 条第 5 節 (a) に基づき「休止会員」などを認め年会費などの取り扱いを決めておき、後にクラブ細則に反映する方法も考えられる。



大田 弘氏



吉野美奈子氏



野村萬齋氏

「表彰ということ」

小檜山 博

以前、ある雑誌に恵まれない境遇にいる人を紹介する連載記事を書いたときのことである。

毎月、福祉施設に5000
円のお金を35年間も送りつ
づけているという女性に会い
に行った。

8 畳一間の木造アパートに住み、新聞配達をしている70歳の女性は、僕の取材をかたくなに拒むのをやっとお願ひした。

彼女は2歳のとき母親が病死、施設に預けられる。

ほかの子にいじめられる。

かばってくれる職員のやさしさが身にしみたという。

中学を出て働いた紡績工場で
20歳のとき工場の男と結婚、
7年間に3人の女の子が生まれ
るが、彼女が30歳のとき、夫
は結核で死亡。

彼女は夫の少額の退職金で、
道ばたでリヤカーを店にして
ネクタイを売る。

上の子は小学生、あとの二
人をリヤカーの横で遊ばせる。

ネクタイは一日に一本くら
いしか売れなかった。

あるとき中年の女性がきて
「これタイヤキ、子どもさん
に」と差し出され涙がほとば
しった。

冬の雪の日、二人の子ども
が空腹と寒さで泣きわめいて
いるとき、初老の紳士がきて
ネクタイを2本買ってくれる。

彼の身なりから、とても彼女が売る安物のネクタイを身につける人とは思えなかったという。

彼は一言もしゃべらずつり銭もとらずに去っていった。

まもなく彼女は疲労で倒れ、
市役所へ行き医療費の助成を
頼んだが規則でカネは出せな
いといわれた。

しかしその職員は自分用の
牛乳を一本持たせてくれて、
「力不足でごめん」とあや
まったそうだ。

彼女は露店をやめて新聞配達をはじめた。

高校へ入った子が夜は食堂の茶碗洗いのアルバイトをして二人の妹の世話をした。

ある日、新聞で親のいない
子の施設が経営難と知り、彼
女は即座に5000円を送っ
た。

名前は伏せた。

家族4人の生活は苦しかったが、自分を助けてくれた人々を思うと苦しいなんて言っていられなかったという。

35年間の毎月の送金が知
れ、市が表彰したいと言っ
てきたとき彼女はきっぱり
辞退した。

「私は昔、ある人からタイ
焼きをいただいたとき決心し
たんです。

一つの手は自分と家族のため
に、もう一つは人様のため
に使おうと。

私のしたことなんか、たいしたことはない。

表彰するなら私に牛乳をくれた人やネクタイを買ってくれた人を表彰してください」

彼女の言葉に、僕は絶句して
て天をあおいだ。

ご清聴ありがとうございました